

(ははは)と印せる三區の地所を外國人に貸渡せし上は速に(い)と號せる正面の地所にある日本人家を取拂ふへい

右青線内の地面悉く外國人にて所有せし時は居留地を別紙繪圖面に(ににに)と印せる堀割迄廣むへい

第三條 別紙繪圖面に(ろ)と印せる正面二區の地所並(は)と印せる後手三區の地所殘らず來る第六月二日に競賣に出すへい右五區の地所競元代一坪に付金一兩二分一箇年の地租一坪に付金一分二朱たるへい

(い印)とせる一區内の地所並(ににに)と印せる堀割を以て境界する地所内は競元代一坪に付金二兩一箇年の地稅一坪に付金一分二朱たるへい

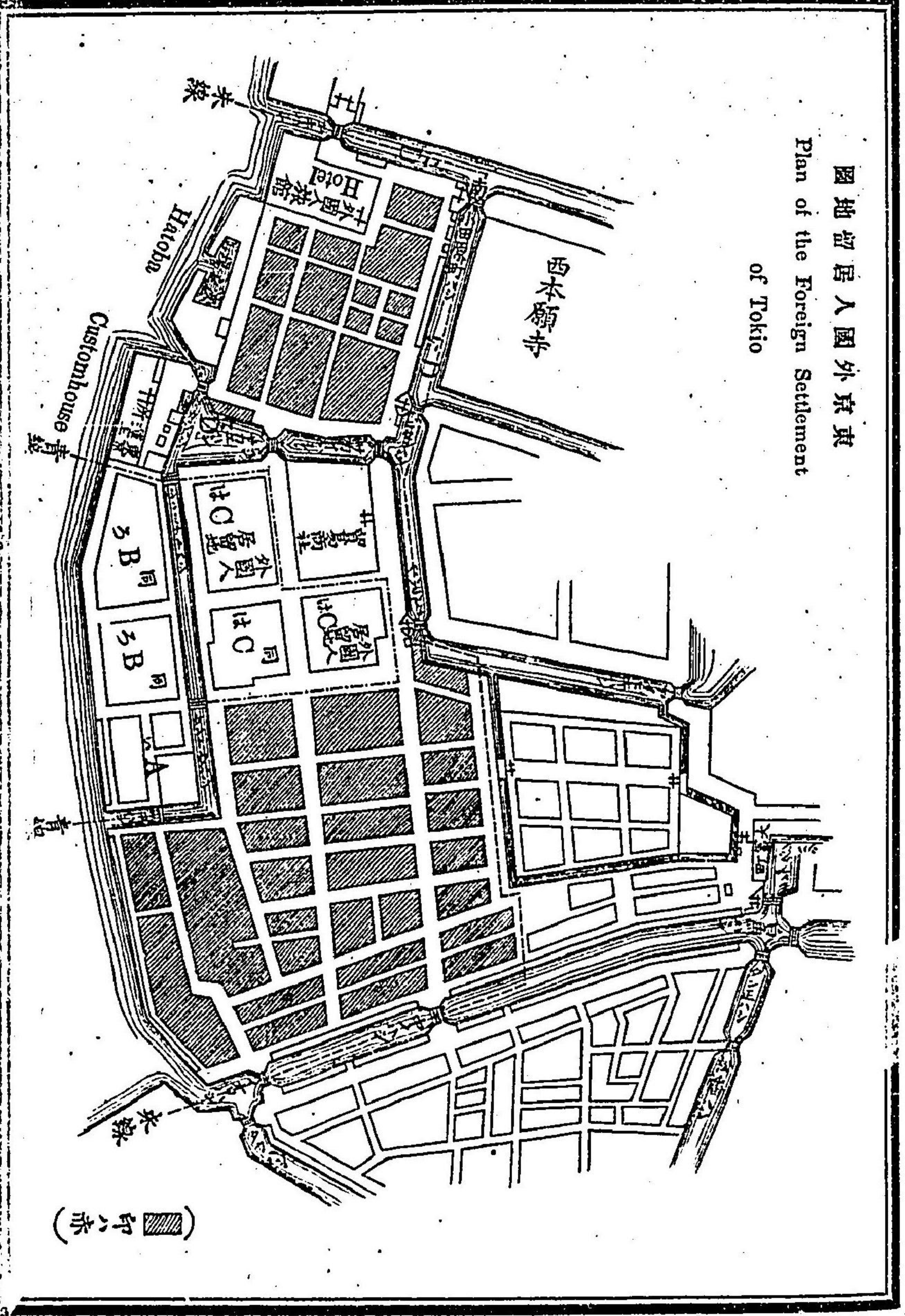
第四條 競賣は此規則に添る競賣簡條書に隨ふへい居留地内にて其他の地所を外國人にて要する旨を各國コンシニルより日本政府に申立る歎又は政府にて競賣せんと欲する時は都て此後の地所競賣に出すへき旨を一箇月以前に日本政府より布告すへい

第五條 外國人より前文の地租を拂ふに付日本政府にて海又は堀割の石垣及び居留地の道路を堅固に築造し且是を修理する事又居留地に下水溝を附け道路に夜燈を照す事も約諾せり

第六條 居留地取締として外國人を雇入る事を日本政府と外國公使雙方にて取極し時は右出費を補ふ爲め外國地借人より貸渡せし地所一坪に付年々金二朱に越さる高を納むへい但右年々可納金高及び右拂方の日限は其地の日本長官及びコンシニルにて取極へい

第七條 方今兵庫大阪にて施行すると等しき外國人居留取締の規則を此後設けんと欲する時は日本政府にて其事に付外國公使等より申立る廉を勘考すへい

抽租一坪に付金壹分  
分試朱二百坪に付  
一箇年金三拾七兩  
二分二箇年(ハ各  
公使ノ請求ニ因リ  
明治十年一月ヨリ  
當分ノ内百坪ニ付  
一箇年金三拾八圓  
ニ減定尤モ追テ形  
況ニ隨ヒ地租增加  
可致旨同年八月書  
達翰ヲ以テ各公使へ



東京外國人居留地圖



○東京外國人居留地面競賣箇條

第一條 競賣すべき地所残らず賣れ終る迄日本政府にて望める順序に其地面を一區宛に區分すへ  
後日の證として其地の日本役所並東京横濱各國コンシユル役所に其地日本長官の調印せる繪  
圖面一枚宛を差置くへ

第二條 競直段高直の方へ必ず賣渡すへ若し競高二人又は二人以上の人々の間に異論起る事あ  
らば改めて更に競賣に出すへ

第三條 買手は高聲にて直附すへ競上げ金高の儀は一坪に付金一分の五分より少なからざるへ  
競賣人は自己の爲或は他人の爲に直附する事あるへからず落槌の節競賣人は買手の姓名を高  
聲に唱へ早速帳面に留むへ尤追て地券を渡す時右買手の外決して他の名前に記すへからず

第四條 最も高價を入たる者は落槌の節未だ次の地所を競賣に出さざる内追て競落代金可相拂證  
として内金百兩其場にて相納むへ是は追て地券相渡す時は差引勘定致すへ若し右内金早速  
不相納者は破談に相極め次の一區を競賣に出さざる内改めて是を競賣に出すへ

第五條 地券は別紙の通相認へ右日附は一千八百七十年第七月一日と書入同日相渡す様用意可  
致右地券に書入る、名面の當人へ可渡は勿論には候得共請取に罷出候者代人たる委任狀或は其  
地所を買取又は地券を請取るべき權を授り旨の確證を持參するに於ては其者へ渡す事不苦尤  
右證書或は其筋にて認めたる寫を日本地方長官の方に留置へ若し同年七月一日迄に買請の手  
續を全了せざる者は破談に相極め次の競賣の節改めて別人にせらるめ既に納め内金は日本政府  
へ取上くへ

第六條 地券相渡す時は手数料として金五兩日本地方官へ納むへ

第七條 日本政府と外國公使と千八百七十年五月四日に取結たる別紙約書第三箇條に隨ひ沽券

外國人居留地規則  
附錄第三條ノ校訂  
ヲ參照ス可シ

金の外夫々地所の借主或は引受人相續人より永久の地代は一坪に付金一分二朱可相納且右約書

第六箇條に隨ひ居留地取締入費等として借主より年々一坪に付金二朱に越ざる高を納むへ

第八條 條約濟外國人民たる證據無之者へは地券相渡不申事

○東京外國人居留地地券案

第何番地所

金何圓正に落手せり依て拙者日本政府の代として何某或は引受人或は相續人へ東京外國人居留地  
公けの繪圖面通何坪有之第何番の地所を左の方法を以永久貸渡せり

第一 千八百七十年五月四日日本政府と外國公使と取結ひ取極書第三箇條に隨ひ何某或は引受  
人或は相續人一坪金一分二朱の割合にて地代總高金何圓を毎年何月何日迄に無相違前金にて相  
納可申事

第二 何某或は引受人或は相續人より右約書第六條に隨ひ取極し居留地取締入費を無相違年々領  
事に納むへ但一坪に付金二朱に過へからず

第三 右第何番の地所或は其内一部たり共日本と條約濟外國人民の外他人に讓るへからず若し之  
を讓る時は必ず雙方領事の前にて譲り渡すへ且其地の日本地方長官其趣を帳面に書加ふへ  
右箇條の内違背有之時は其領事之を吟味すへ若し地租を納めざる時は其地租並過料として一  
箇月に付右地租高の二分と訴訟裁斷入費とを差出さる様日本長官にて裁斷すへ右を不納  
間は其過料として裁斷の日より右納むべき高に前同様二分の利息を取立へ依て此地券を二枚  
に書し一枚は借主へ渡し一枚は日本長官の控とすへ

年月日

日本地方官

姓名調印



第六 五月二十日(刑部省ヨリ民政部ニ回答)

東京府取扱當時徒罪人東京本所吉岡町二丁目斧吉外二人相手取横濱本町二丁目忠右衛門ヨリ訴訟及ヒ候ニ付右斧吉徒罪中呼出吟味致候而モ不苦哉御問合之趣致承知候右ハ徒罪中ニ候トモ吟味筋有之呼出候儀者差障無之候間何日差出之儀證書ヲ以御申越有之候ハ、差出可申候此段及御答候也

(民部省問合略ス)

第七 五月二十三日(岡内少判事ヨリ犬養東京權少參事ヘ申入)

別紙再訂致候付今一應爲念御打合申候間御府ニオイテ篤ト御商量之上御別議モ無之候ハ、其段御答有之度此段御打合申入候也

(別紙)

第一條

一元高ト役高トヲ合算シ申立者

一部分

自訴スレハ役高追徴シ無構

二部分

人ヨリ不審ヲ受自訴スレハ役高追徴シ不應爲輕ニヨリ謹身二十日

三部分

更ニ自訴セサルハ追徴シ不應爲重ニヨリ謹身四十日

第二條

一元高ニアラス役高ニアラスト雖モ元祿役高合算ノ米數ヨリ減シ申立分假令ハ元祿二十石役高二十石合テ四十石ノ處三十五石ト申立總テ偽情無キ者ノ類ナリ

第一條 三部分ニ一等ヲ加ヘ謹身五十日

但自訴スレハ第一條一部分ノ法ニヨリ加數追徴シ無構

人ヨリ不審ヲ受自訴スレハ加數追徴シ第一條三部分ニ同シ自訴セサルハ本文ノ如シ

第二條

一辰八月二十日扶持米被廢旨云々御布告以後扶持米ヲ俵或ハ石ニ直シ申立者ハ第二條ニ同シ

第四條

一八月二十二日御布告前石或ハ扶持ヲ俵ニ直シ又俵ヲ石扶持等ニ直スノ類米目過不及無キハ第一條ノ三部分ニ同シ

第五條

一舊幕勤仕中或ハ長子ニテ部屋住中別段ニ被召出俸祿ヲ受居候中御一新ノ際ニ當リ其儘申立ル分向々祿ヲ不賜父兄養育ニ歸ス

但自訴スレハ向々祿ヲ不賜而已申渡無構人ヨリ不審ヲ受自訴スレハ同斷不應爲輕キヲ以テ謹

慎二十日

自訴セサルハ不應爲重キヲ以テ謹慎四十日

第六條

一右同斷次男三男及養育人等ニテ部屋住ヨリ被召出俸祿ヲ受候中御一新ノ際ニ當リ其儘申立ル分第一條ノ如シ

第七條

一右同斷長子二三男養育人等ヲ不分被召出候後一度被免部屋住ニ戻リ居候モノ前被召出居候中ノ俸祿等申立ルモノハ第十一條ニ同シ

第八條



一書損ニテ祿高減シ申立候者赦前無構赦後屹度叱リ

第九條

一諸組へ抱替ニ相成其者一世足シ高ニテ勤仕其子ヨリ場所高ニ相成ル者其高申出ル者無構

第十條

一祿高相違スト雖モ眞ノ書損等ニテ欲心ナキニ於テハ書損ヲ以論シ取過分追徴シ謹慎四十日

但八月二十二日御布令ニ扶持ハ被廢云々ノ條アリヨツテ布告後扶持米ヲ申立分ハ書損ノ限ニ

アラス

第十一條

一元祿足高等合算シ其米數ヨリ増加シ申立ル者偽ヲ以論シ格祿取放シ身寄へ引渡ス

但自訴ハ第一條一部分ノ法ニ同シ

人ヨリ不審ヲ受自訴スレハ第一條二部分ノ法ニ一等ヲ加

一總テ赦前ハ一等減ス

右之廉々總テ騷擾中且御布令ノ細密ナラサルヲ斟酌シ寛宥ヲ旨トシ相定候事

(犬養權少參事回答)五月二十八日

別紙御再訂ニ付御打合之趣承知致シ則篤ト致熟考候處別ニ異存無之候間右書類御返却此段御答オ  
ヨロ候也

第 八 六月十二日(東京府ヨリ刑部省ニ掛合)

過日御懸合有之候囚獄司徒場贖差紙ヲ以市中へ罷越金子街取候モノ有之候ニ付取締方行届候様被  
成度段致承知別紙之通市在へモ觸置候様可致ト存候就テハ徒場印章差紙ニ相用候分爲見合數百枚  
程御返シ被下度此段及御掛合候也(六月四日刑部省掛合書及同十五)  
日印影百枚相廻スニ付添書略ス

制度變革ニ依リ消滅

(別紙)

囚獄司徒場ヨリ呼出ノ贖セ差紙ヲ以市在へ罷越支度代等貪取候者有之哉ニ相聞不埒之至ニ候素ヨ  
リ右徒場ヨリ差遣候差紙ハ別紙印章押用候書ニ付印章無之分ハ勿論紛敷差紙持參候者有之候ハ、  
直ニ留置最寄取締屯所へ申立候様可致事  
右之趣市在へ不洩様可觸示者也

第 九 六月十七日(刑部省ヨリ民部省ニ掛合)

元民政裁判所掛別紙名前之者共先般 主上御元服被爲濟候 御大禮之御赦ニ被免追テ箱館表人足  
寄場へ可被差遣旨御申渡當時在牢中ニ候處右人足寄場之儀急速御決可相成儀ニ無之候間今般外流  
罪之者一同便船次第三宅新島兩島之内へ差遣候積取計申候就テハ松井鉢助外八人へ渡遣候被下錢  
士分ハ金貳兩庶人ハ金壹兩ツ、何レモ錢ニ而早々當省へ御引渡相成候様致度依之別紙相添此段及  
御掛合候也(別紙略ス)

第 十 六月二十四日(刑部省ヨリ辨官ニ申入)

兵部省ヨリ鑑札紛失之儀ニ付伺出候趣ヲ以御問合有之候處右ハ兼テ御布告ニ相成候御門鑑札紛失  
規則ニヨリ省ヨリ相渡有之候鑑札モ同様ニ處置致來候間此旨御差圖ニ相成可然ト存候依之御回之  
書面御返却旁申入候也

(返却書面)

御門鑑札取落シ候節ハ兼テ御規則被 仰出モ有之候然ル處當省中鑑札相渡有之候官員以下未々用  
達町人手代共ニ至リテ取落候節ハ如何處置可仕哉一般之御規則モ有之候儀ト奉存候條此段至急相  
伺候也

四年太政官第二  
二十四ニ依リ消滅



庚午六月二十二日

辨官御中

兵部省

五年太政官第三百七十八號參看

第十一 六月(長崎縣伺)

徒刑御仕置申付徒刑場へ差遣置候者重ク相煩候節年限中ニテモ身寄所役人共へ預ケ遺全快ノ殘年限徒刑申付可然哉又ハ重病ニ候トモ徒刑年限中ハ預ケ歸シ候儀ハ難相成儀ニ有之候哉此段及御問合候也

(刑部省附紙)六月二十七日

徒刑年限中ハ重病ニ候トモ預ケ歸候儀ハ難相成候事

第十二 七月十三日(辨官ヨリ刑部省ニ申入)

別紙之通神祇官ヨリ伺出候ニ付以後都テ御省へ可相渡旨相達候尤是迄兎角滯滞致候内情ヨリ伺出候様相見候ニ付可成丈滯滞不致候様精々御取計可有之依テ別紙添此段申入候也

(別紙)

官社以下府藩縣管轄之神社並神主等訴訟及出入等ノ儀一切札問筋之儀ハ從來當官取扱ニ不及當官ニ於テハ神祇之政務一向タル儀勿論之儀ニ付右等之取調都テ彈正臺へ差付候事ニ有之候處凡神社ノ爭論或ハ神佛取別等之事件ヨリ差纏又ハ神主職業之違亂社領之出入地方ニ引合等有之候廉々神祇之筋ニ關係致候儀ハ他向ニテ取捌難キ儀モ有之ニ付彈正臺ニ於テ取調ニ不及其儘當官へ差向候儀モ有之候トモ前意之如ク當官札問筋取合不仕候ニ付其趣ヲ以テ彈正臺へ再應差返候事ニ有之右等ニ付テハ雙方讓合ト相成甚遲滯ニ及ヒ本人殊ノ外困窮致候様子尤神祇之筋合ニ於テハ他向ニ於テ不分明ノ儀モ可有之右等之次第ニ成行候ニ付テハ追々神祇之公事訴訟等當官取調不仕他向ニテ扱方運兼候様相見候テハ自然狡黠ノ手段ヲ企不謂訴訟箱訴等ニ及候族モ出來仕以之外ノ儀ニ押

五年太政官第三百七十八號參看

移可申哉ニ付此以後前件之通訴訟吟味モノ等當官ニ於テ專ラ關係有之品々ハ一應取調致候テ其上糺彈推考等ノ儀ハ夫々其筋へ引渡不都合無之様致度候間此段御聽置可被下候事  
庚午七月十二日  
辨官御中  
神祇官

(附紙)

訴狀等之儀以後都テ刑部省へ可引渡尤滯滞不相成様同省へモ相達置候事

第十三 七月十八日(京都府伺)

天裁濟押印到來次第速ニ可處刑管之處一ヶ月ニ兩三度モ行刑有之候テハ自其入費モ不少候ニ付於當府ハ自今即決之分ハ刑律決候時速ニ處之其外ハ春夏秋冬ニ分テ一季ニ一度ト相定一季之内月日ハ時宜見計之事右之通相定度候處 天裁之儀ニ付此段一應否可相伺候也

(刑部省附紙)

天裁濟斷刑及指圖候ハ、無遲滯行刑可有之事

第十四 七月二十八日(神奈川縣伺)

支那人並條約未濟國ノモノ當地在留中盜其外惡事有之候節差押吟味仕置等取計方之儀ハ西洋千八百六十七年第十一月舊政府ト外國公使トノ間ニ取結有之候居留地取締約書中第四箇條別紙之趣意ニ基キ右吟味之節各國岡士爲立會罪狀相札御國律ニ見合死刑以上ニ見込候モノハ御仕置之儀御國人同様伺之上取計死刑以下ノ分モ御國人同様之律ヲ以テ手限ニテ御答等申付尤難決分ハ其時々相伺候積ニ有之右ニテ可然哉條約未濟國之モノ御仕置等申付方兼テノ伺濟無之候間相伺候外國關係之儀ニ付外務省御合議之上至急御差圖有之候様致度此段奉伺候以上

(刑部省附紙)

七年四月二十五日 司法省達參看



可爲伺之通事

但外務省へモ合議致候處異存無之候事

第十五 新編外國人墓地約定書 明治三年庚午七月晦日(西曆千八百七十年八月二十六日)調印

第一條

新編裁判所は外國墓所の爲寄居道の近傍なる一番山に於て長東南より西北へ九十フット(但日本曲尺凡九十尺)幅東北より西南へ三十フット(但日本曲尺凡三十尺)の一區の地所を當時現在せる立木と共に條約濟各國コンシユルへ墓所の爲儘に相渡す事を取極たり

第二條

斯の如く引渡したる地所は條約濟外國人墓所の外には何事にも用ゆへからず

第三條

外國コンシユルは墓地の爲柵矢來其外總ての雜費を拂ふ事を承知すへ此故に一の墳墓の爲に與ふる場所毎に相當の入費を命し其總雜費を墓地の入費に充へ

第四條

當今の墓所道は常に開き置へき事右墓所の十五間四方内にある樹林は其儘立置事に注意致すと雖萬一右を伐すか候節は各國コンシユルと可致相談事

第五條

後來に至り墓地は可増者とす故に右に接近の地所は新編裁判所より前以て外國コンシユルへ報告なしには何用の爲にも之を與ふへからず猶此上右地所を墓地の爲に望む事ある時は他事を差置き其方に用ひ得へき事

第六條

裁判所トハ官府ヲ云フ

墓所保有に就ての諸雜費の拂方は外國コンシユルにて引受ると雖も惡徒等の墓所を犯す事を防くは新編裁判所の取締役にて兼て注意可致事

明治三年庚午七月三十日

新編知縣事

三條 西公允 花押

新編大參縣事

名和道一 花押

本野盛亨 花押

英國兼澳國コンシユル勸方

ゼー、ツループ 手記

獨逸北部聯邦コンシユル

アド、ライスネル 手記

和蘭副コンシユル兼伊國コンシユル代

アル、エー、メース 手記

第十六 九月十日(辨官ヨリ兵部省ニ申入)

別紙之通外務省ヨリ伺出御付紙濟ニ付寫ヲ以此段御達申入候也

(別紙)

辨官

御中

外務省

來ル廿二日 御誕辰之處一昨年昨年トモ横濱長崎砲臺ニ於テ二十一發祝砲打發申候右ハ是迄各國君主誕生日ニ彼國軍艦ニテ祝砲打發此方ニテモ彼ヲ相祝打發候儀有之然ル處此方 御誕辰ニモ相

四年兵部省第八十六号二月十七日陸軍省城外邊參事



祝不申候而者彼國王誕生日ノニ相祝候様ニ相成體裁モ不宣候間以來トモ 御誕辰日ニハ前二ヶ年之通二十一發之祝砲打發候事永世一定之條規ニ致度就而者當時東京品川沖並各港ニ碇泊致候御軍艦ニテモ同様打發有之候間前書之趣早々兵部省へ御沙汰相成候様仕度各港之義ハ舊ニ依リ當省ヨリ至急相達候様可仕候依之相伺申候也

庚午九月十日

(御附紙)

伺之通兵部省へ御達ニ相成候事

第十七 九月十四日(刑部省伺)

上田藩支配所

栗原村無宿

富士太郎

右強盜賊八百九拾兩之罪ヲ以鼻示斷刑伺相濟候上其段右藩へ相達シ以後於藩不行刑中隣牢之者破牢相企候趣知覺訴出候ニ付テハ宥典之赦例再伺出候ニ付法律取調候處清律曰他盜糾合シテ越獄スルニ畏懼シテ從ハス寔ニ據テ首報シ因テ他盜立時ニ擒獲シ脱逃ヲ致サ、ルヲ得レハ首報スル者ヲ以テ死ヲ減シ滿流依テ死一等ヲ減シ滿流ニ所斷可致候此段再奏仕候以上

(辨官附紙)

伺之通

第十八 九月二十日(辨官ヨリ刑部省ニ申入)

人體解剖之儀別紙之通大學東校ヨリ伺出其通被 仰付候間別紙寫相添此段御達申入候也

(別紙)

六年太政官第二百六號第二九十五條ニ依リ消滅

五年太政官第三百七十八號ニ依リ消滅

人體解剖之儀ハ醫道ニ於テ尤至重之事件ニ有之實ニ此一技ヲ以テ醫術之基礎ト仕候然ル處是迄重刑屍之外解剖致候儀御許容無御座候得共年分穢不過二三屍甚以遺憾之至ニ奉存候既ニ昨年平人病死體迄解剖御許容ニ相成候上ニ御座候得ハ斷刑或ハ獄中病死之者共其屍宿ヨリ願受候者無之分ハ都テ解剖御許容ニ相成候様奉願候尤解剖後ハ厚ク埋吊等爲仕候儀ニ御坐候西洋各國醫術當今之場合ニ至候ハ全此一技莫大ニ試驗出來候ヨリ十分精巧賢實ニ相成候儀ニ有之候彼國大ナル學校ニ於テハ日々五十或ハ百體之屍ヲ解剖仕候由尤彼國トハ御國體自相達仕候得ハ固同日之論ニハ無御坐候得共前文之通御許容相成候上ハ必醫術之進歩是迄ヨリ幾倍仕候儀ト奉存候此段至急御許容奉願候也

庚午八月二十日

辨官御中

大學東校

(御附紙)

可爲伺ノ通事

本文第九百四十四ヲ以テ新律綱領頒布

第十九 九月二十五日(刑部省ヨリ民部省ニ回答)

長崎縣ヨリ行刑之者届出候趣ヲ以不相當之儀無之哉御問合之段承知致候右ハ一昨辰年御布告之旨モ有之候間新律頒布迄從前之通取計可申且墨刑ハ以來差止メ候方可然此段御通達有之度候也

第二十 九月二十五日(刑部省定)

死罪之者斷刑申渡之儀ハ是迄囚獄大少錄出張於牢庭申渡來候處爾來ハ於當省白洲判事ヨリ申渡行刑檢使之儀ハ大少錄ニテ出役可致善今般改正取極候事

第二十一 九月晦日(刑部省伺)

流刑之者配所へ相越候節妻妾附添罷越度旨願出候ハ、聞届不苦候儀ニ有之候得共爲念此段相伺候

本文第八百三十九參看

五年太政官第三百七十八號參看六年司法省第二十二號ニ依リ消滅



間至急御差圖有之候様致度候也

(辨官附紙)

可爲伺之通事

第二十二 十月七日(開拓使問合)

在官之者父徒罪刑ニ被處候得者其子進退相伺候ニ付差扣可申付候哉左候ハ、日數何程ニテ差免可申裁徒罪之期限ニ依リ差別モ可有之哉致承知度及御問合候也

(刑部省回答)十月十日

在官之者父徒罪ニ被處候而其子進退相伺候得ハ差扣可申付哉御問合之趣致承知候父徒罪ニ被處候共其子犯罪之始末ニ關係無之候得ハ差扣申付ニ不及候此段及御答候也

第二十三 十月二十八日(刑部省ヨリ東京府ニ打合)

斬罪以上行刑ノ節々及御打合御府ニ於テ市中五箇所へ犯由牌揭示相成來候處今般刑律新定ノ上ハ梟示ニ限り是迄ノ通市中五箇所及刑場ニ相建絞斬二刑ハ揭示不致候間自今右ノ規則ニ依リ御取計有之度此段及御打合候也

第二十四 閏十月(刑部省伺)

律令ニ正條ナキ者ハ他律ヲ援引シテ罪名ヲ定擬シ上司ニ申シ議定ツテ奏聞スルコト名例律ニ掲クル所ノ如シ然ルニ大寶唐明清律大備ノ本律ニテモ正條ハ限り有テ罪狀ハ窮リ無シ故ニ他律ヲ援引セサルヲ得ス況ヤ現今進奏ノ律ノ如キ所謂綱領ニシテ素ヨリ無窮ノ罪狀ヲ判スルニ足ラサレハ其他律ヲ援引スル大寶諸律ニ比スレハ必ス倍多ナル可シ今一々進奏セント欲セハ却テ萬機ヲ妨クル而巳ニ非ス罪囚ノ滯積モ亦懸ス可シ因テ正條ナキモノト雖モ流罪以下ハ進奏ヲ煩サス本省ニ於テ謹テ援引斷定シ其斷定スル所ヲ別ニ條例ニ編ミ一卷成ル毎トニ進呈シ但死罪而已ハ一々定擬奏聞仕

五年十一月三十日  
司法省達參卷六年  
太政官第二百六號  
ヲ以テ改ム

六年太政官第二百  
六號ニ依リ消滅

度此段奉伺候

(辨官附紙)閏十月十八日

當分ハ可爲伺之通候事

第二十五

箱館外國人墳墓地證書 明治三年庚午閏十月十三日(西曆  
千八百七十年十二月五日)議定

當箱館港に於て外國人墳墓地として山脊泊より西南地藏堂前後にて表口我七拾八尺奥行百八尺の地はプロテスタント宗の墓地と定め表口百貳拾尺奥行百三拾尺の地はギリキ宗の墓地と定め又其以南表口百八尺奥行八拾四尺の地はローマン、カトリック宗の墓地と定め都て三箇所に此度新に棒杭を取建右構内は全く外國人の墳墓地と取極め上は猥りに動かすへからず右地所境内は日本政府に於て修復を加ふる事なり

同所往來道の儀は山脊泊稻荷社脇より海岸通巾拾八尺に修造すへ  
右は明治三庚午年閏十月十三日當裁判所に於て會議決定する者也

岩 村 判 官 印

杉 浦 權 判 官 印

英國コンシユル兼澳國コンシユル代

アル、ユーステン 手記

米國コンシユル

エー、シー、ドン 手記

魯國コンシユル

エー、イー、オラロウスキ 手記



獨逸北部聯邦コンシユル

シ、ガルトキル手記

第二十六 十一月三日(刑部省掛合)

去月廿八日及御問合置候官員之者宿直中類燒ニ逢候節云々早々御答承知致度且官員免職之節滿二年相勤候者へ御手當被下候御規則ニ候處右二年ト申ハ廿四ヶ月之内閏月ヲ加へ候哉又ハ相省キ候儀ニ候哉是又承知致置度候間右兩條トモ至急御答有之度此段及御掛合候也

(大藏省回答)十一月三日

官員之者宿直中邸宅類燒ニ逢候節御手當等被下有無之儀御問合之趣致承知候宿直ハ勿論在出留守ニテモ御手當被下候儀無之候此段御迴答申入候也

追テ官宅居宅類燒之者依願官祿一ヶ月前借御開濟十ヶ月賦ヲ以翌月ヨリ官祿渡方之内十分ノ一ツ、引落候儀ハ有之候且御申副有之候奉職滿二年月數之内閏月ハ其當月ト合セテ一ヶ月ト相心得以上二十四ヶ月ニ有之候也

第二十七 十一月七日(神祇官ヨリ刑部省ニ回答)

諸國社司之輩繼目復飾神勸等云々之儀御申越右ハ當官直支配社司之輩犯罪有之候節ハ其地方官ヨリ伺出及處置候尤直支配之外於地方官取計來候得共大事件之儀ハ此限無之候依テ及御回答候也

第二十八 十一月(刑部省伺)

偽造寶貨律竊者 朝廷權時ノ宜ヲ以テ嚴等假定セラルト雖モ鼻示ノ刑ハ新律名例ニ云フ如ク兇殘ノ甚者ヲ待ツ所以ニシテ律内祖父母父母夫ヲ毆故謀殺シ本管長官ヲ謀殺シ一家三人ヲ殺等ノ項ニ非ルヨリハ敢テ此例ニ處セス太政官印ノ偽造ヲ以テスラ其罪猶ホ絞ニ止マル寶貨偽造ノ罪其輕重ヲ比較スルニ未タ官印偽造ヨリ重シト謂フ可ラス然ルニ之ヲ處スルニ兇殘ノ甚者ヲ待ノ刑ヲ以テ

六年大藏省第四十  
四號ヲ以テ類燒ノ  
節月拾寶渡ヲ廢ス  
七年太政官第六十  
一號達第二十三條  
ニ依リ閏月計算方  
ノ件消滅

四年太政官第二百  
三十五參看

六年太政官第二百  
六號ヲ以テ改ム

スルハ假令 朝廷一時ノ權宜ニ出ト雖モ亦未タ其當ヲ得ルト謂フ可ラス況ヤ死刑ハ府藩縣奏請回報ヲ待テ處決スルハ令甲ノ職スル所律條ノ存スル所ナルヲ今此犯罪人ノミヲ府藩縣ニ命シテ委任專斷セシムルハ律令ニ違フ而已ニ非ス 朝廷命ヲ重シ刑ヲ慎ノ道ニ非レハ寶貨偽造ノ刑名ハ別紙ノ如ク改定シ新律頒布ノ期ニ及ンテ委任專斷ノ布令ヲ繳回シ自餘ノ死刑ト同ク奏請セシメント欲ス若シ改定繳回シ暫ク其時ヲ待ツ可シト謂ハ、寶貨偽造ノ條ハ新律内ヲ白空シ他日ヲ待テ補フモ未タ晚シトセサルナリ敢テ 朝廷ノ再議ヲ 仰ク

(辨官附紙)

本文伺之通御改定相成御發令之儀ハ暫其時ヲ待新律内ヲ白空シ他日補正候様被 仰付候事

(別紙)

偽造寶貨

凡寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スル者斬從タル者及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者流三等其雇ヒヲ受ケ雜役ヲ爲ス者ハ徒一年半未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減ス 若シ過ヲ悔テ自首スル者已ニ行使スルハ一等ヲ減シ未タ行使セサルハ罪ヲ免ス 若シ寶貨ノ邊縁ヲ剪錯シテ利ヲ取り及ヒ銷燬スル者ハ徒二年



正 誤

元 附 録	頁	行	誤	正
四九	六七	六一月一月	一月一日	一月一日
一一二	一一二	一三すし	すへし	すへし
一一八	一一八	一三瑞西人の日	瑞西人の日	瑞西人の日
一一八	一一八	一十二月	十月	十月
一一八	一一八	二目録	銀目	銀目
一五八	一五八	一添にる	添たる	添たる
一七八	一七八	二ウーキ	ウーキ	ウーキ
一九一	一九一	二〇上前	上前以て	上前以て
二〇二	二〇二	Plan	Plan	Plan
二〇二	二〇二	一四正月二十二日	正月	正月
一九〇	一九〇	七九日	十八日	十八日
一〇	一〇	八二日	十日	十日
一八	一八	五二十一日	四日	四日
二四	二四	一一二十三日	二十二日	二十二日
二七	二七	一三二十三日	二十五日	二十五日
三一	三一	一八三日	二十二日	二十二日
三二	三二	一九三日	四日	四日

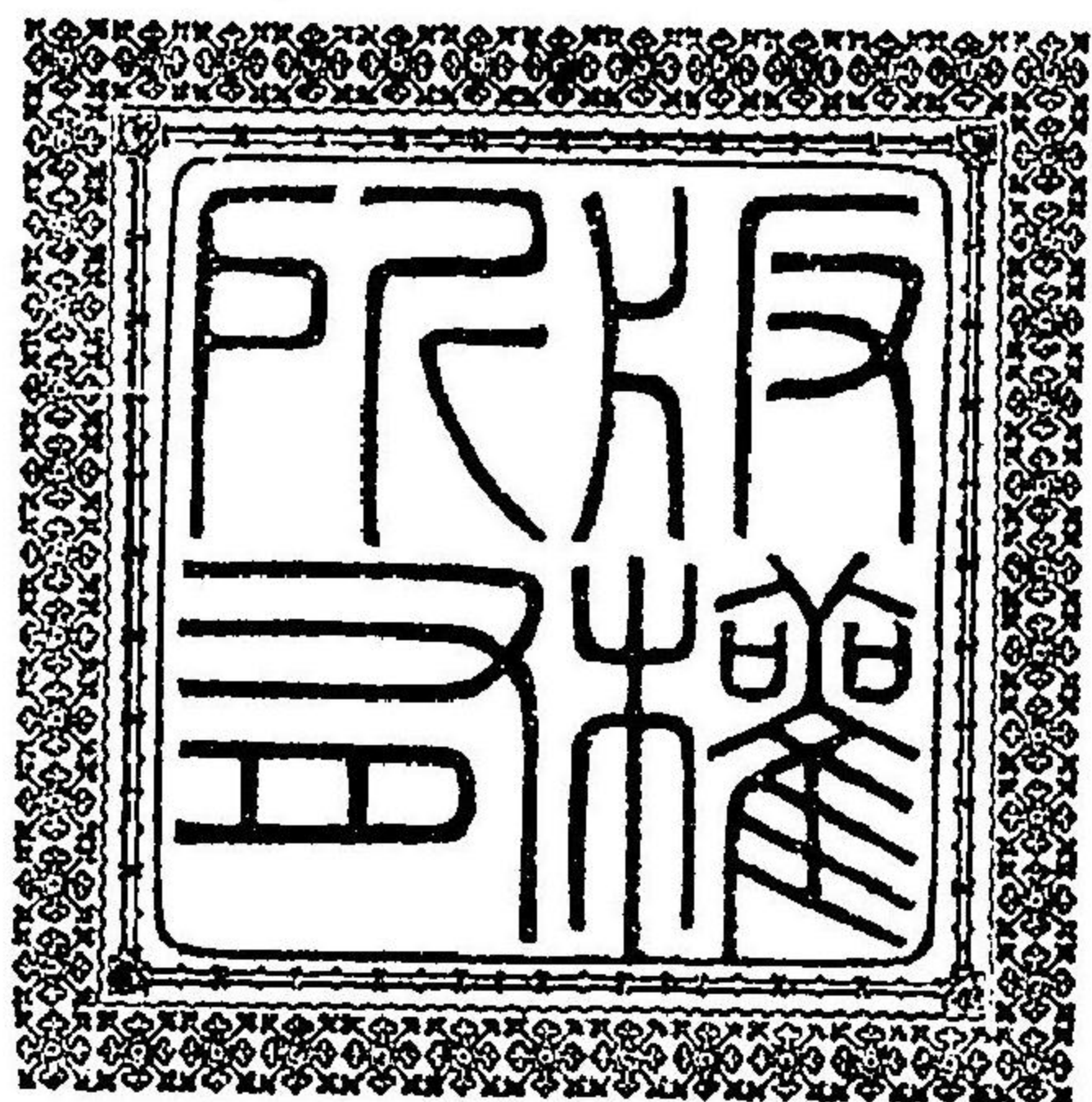
  

三 年	四〇	一五一度四	一度ヲ四
本文二二五	一三十八日	梶井門室	十四日
一四九	一〇 妙法院門室	妙法院門室	妙法院門室
一五五 船印ノ下(紋ハ朱)		地白紋朱	
一八九	一八 教官ノ之	教官之	
二五四	六 入隊	入隊	
三二二	一四 役所ヘモ	役所ヘ可	
三二九	一三 乘駕箱	乘駕箱	
三四〇	一六 第五百八十一	第五百八十一	
四三一	一九 用意金錢	用意金錢	
五四八	一七 官	(太政官)	
六三三	一二 行フハ	行フ者ハ	
六五三	二 料飲	料飲	

本文二二四頁第二百六欄外同上 ●一五五頁第二百五十八  
 欄外二年第六百三十八參付ハ併 ●二〇五頁四行(別紙)ハ  
 一行ノ次ニ入ル ●二八二頁第四百九十六欄外ノ資外學ハ  
 ノ外學資ノ誤 ●四一五頁第六百九十四欄外中學校ノ校 ●  
 四六一頁第七百六十一欄外 ○ハ併 ●五一四頁第八百三十  
 九欄外四年太政官第三十三參付チ脱ス



明治十八年七月十五日版權屆  
明治二十年十一月出版



定價金六拾錢



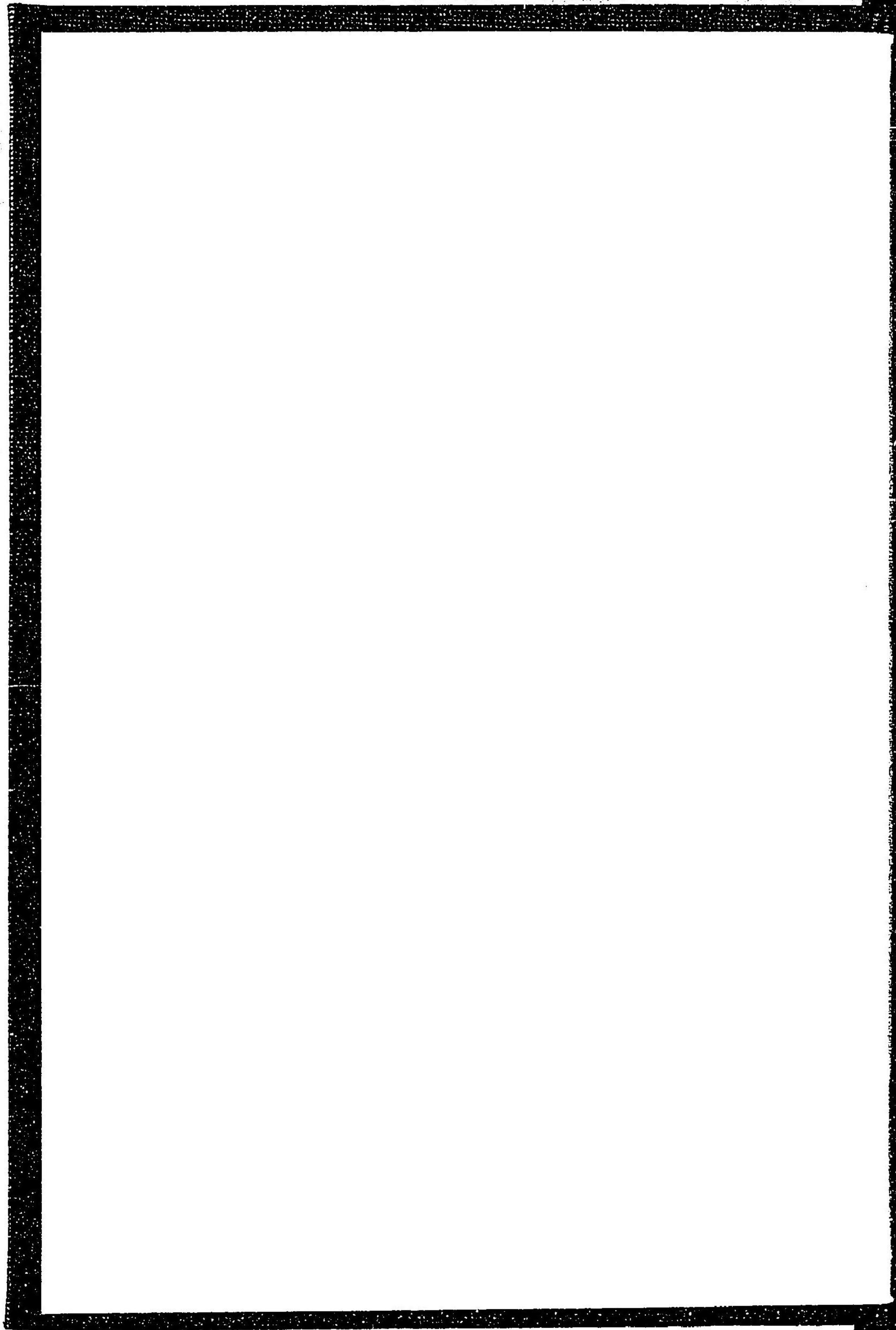
TC-28

販賣所

東京京橋區銀座四丁目

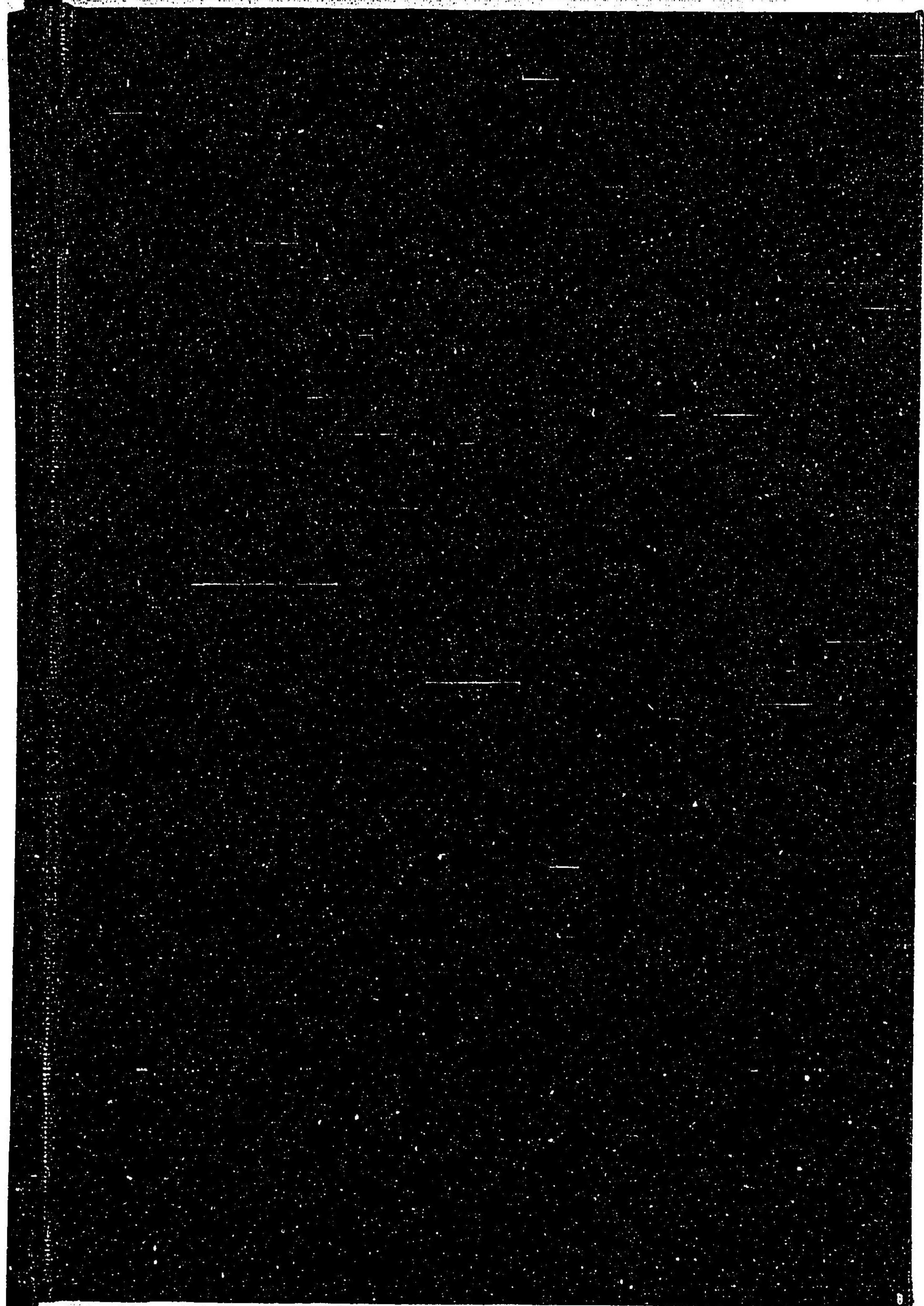
博聞社





1







031130-005-7

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-0964





